



道徳だより

令和4年1月

～夢と笑顔と「ありがとう」があふれる上里東小学校～



今年度も残すところ、あと2ヶ月となりました。どの児童も、自分がやらなければならないことをしっかりやり遂げようとする姿勢が見られ、成長を感じることができました。

今回は、2年生と1年生の授業の感想をまとめましたので、御家族でお話のあらすじと同じ場面を思い浮かべながら、読んでいただければと思います。



<2年生の授業より>

★「きまりのない学校」～きまりのたいせつさ～【規則の尊重】

★きまりがもつ意味について考えることを通して、みんなが使う物を大切に、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。

●お話の内容●

学校のきまりが守れないあきらさんは、ある日、きまりのない学校へ行きます。あきらさんは、教室で近くにあったブロックを高く積み上げてお城を完成させるのですが、走り回っていた男の子に壊されています。教室では、みんなそれぞれが好きなことをやっていて友達のことなど知らんぷりです。あきらさんの目には、なぜだか涙がたくさんたまるのです。ただ、このきまりのない学校は夢の話で、あきらさんは「ああよかった。」と言うお話です。

<きまりについて考えたこと>

- ・きまりがないいつもの生活ではないな。
- ・きまりがあるとみんな安全に過ごせると思いました。
- ・廊下を走ることはダメ。今度からはやめようと思いました。
- ・これからも、きまりをしっかり守ろうと思いました。



<1年生の授業より>

★「おおひとやま」～すこしぐらい～【規則の尊重】

★きまりを守らずに、少しだけならいいだろうという考えから行動していると、それが積み重なって、みんなが困ることに気付くことから、進んできまりを守ろうとする態度を養う。

●お話の内容●

おおひとやまは、とても高くてきれいな山です。いつの間にか、「おおひとやまに登ると幸せになれる」といううわさが広がりました。訪れた人々はおおひとやまの石を持って帰り、おおひとやまはどんどん小さくなってしまいます。そこで、「石を持って帰ってはいけない」というきまりができました。しかし、『すこしぐらい』という気持ちできまりを守らず、その後もおおひとやまに登った人々は石を持ち帰ってしまい……。

教師：おおひとやまが小さくなってしまったとき、みんなはどんなことを考えたのでしょうか。

児童：「しっかりときまりを守るべきだったな。」

「きれいで自慢のおおひとやまが小さくなってしまって悲しい。」

「すこしぐらい」という気持ちできまりを守らないと、みんなが困ってしまう。

